会　議　録

１　会議名

令和５年度　上越市自殺予防対策連携会議専門部会（第１回）

２　議題（公開・非公開の別）

⑴　次期上越市自殺予防対策推進計画策定における課題及び取組の方向性（公開）

⑵　次期上越市自殺予防対策推進計画の評価指標について（公開）

⑶　その他（公開）

３　開催日時

令和５年９月２７日（水）午後２時００分から

４　開催場所

上越文化会館　中会議室

５　傍聴人の数

１人

６　非公開の理由

なし

７　出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委　員：１３名中　１２名出席

五十嵐 透子、川室 優、山田 英理子、深澤 ますみ、馬場 隆信、
堀田 克己、竹内 義夫、富井 美穂、澁谷 恵子、丸山 富一郎、
星野 悟史、牧井 創

・事務局：健康づくり推進課

田中健康福祉部参事、柳澤統括保健師長、長嶺上席保健師長、
今野保健師長、板垣主任、瀧澤主任
すこやかなくらし包括支援センター　長谷川主任

８　発言の内容

【開会】

⑴　あいさつ　田中健康福祉部参事

⑵　議事

（事務局が、資料１～2 により説明）

【川室会長】

資料 2①～③の地域で生きることへ包括的な支援の推進について協議する。

【馬場委員】

民生委員活動を行う中で、訪問や面談で相談があれば聞くことに徹し、必要があれば専門機関につないでいる。自殺の原因は半数が不詳であり、対策を検討するにしてもポイントが絞りづらく難しい問題だ。高齢者に向けての健康セミナー等を行っているが、自殺に関して取り上げることが少ないと思う。地域の特性も検討していく必要がある。

【川室会長】

自殺の原因の半数が不詳という実態をどのように紐解いていくかは難しさがある。健康セミナーでは、自殺をテーマとしたものが少ないのか事務局に伺う。

【田中健康福祉部参事】

こころの健康についての講座は行っているが、自殺をテーマにしたものは少ない。

【川室会長】

今後の大きな課題だと思う。学校現場では、地域との関わりはあるのか。

【牧井委員】

登下校において、地域の皆さんから心配な子どもについてお聞きしている。学校に伝えていただくことにより、子どもと面談ができることもある。自殺とは直接関係がなくても、明るい顔をしていない等の気付きがあれば、学校で関わりを持てることはある。

【川室会長】

いのちとこころの支援センターでは、どのような取組を行っているのか。

【澁谷委員】

地域の様々な関係機関が関わっているケースが多く、高齢者は地域包括支援センターから同行訪問の依頼がある。また、地域包括支援センターの巡回を通して相談につながる場合もある。地域包括支援センターを対象に、自殺ハイリスク者の事例検討会も行っている。企業へは出前講座で関わりを持っており、ストレスの話題の中に必ず自殺の実態や相談の仕方について話している。また、学生や教職員対象に学校関係への出前講座も受けている。

【堀田委員】

地域包括支援センターでは、関係者の連携を密にすることでケースの把握に努めている。地域ケア推進会議を毎年開催しており、過去には自殺予防をテーマにした回もあった。会議に参加する民生委員等から、精神的に落ち込んでいる人を把握しても、どのタイミング

で自殺や死という言葉を出したらいいのか不安であるという声もある。

【川室会長】

自殺を表に出すことに躊躇すると思われるが、対象者にどのようなタイトルでセミナーの参加を呼びかけているのか。

【堀田委員】

気づきやその後の対応等のタイトルとしている。

【五十嵐委員】

上越市は自殺に対してオープンな地域なのか、それともタブー視されているのか。

【田中健康福祉部参事】

タブー視している地域や自殺について比較的受け入れていると思われる地域もある。

【五十嵐委員】

地域性に合わせることが重要である。令和 6 年度の上越市の自殺予防強化対策として、健康に関する研修会には必ず自殺のことを含めて、その評価をしてはどうか。

【富井委員】

保健所でも上越市と共催で健康講座を行っている。保健所単独では、学校や企業への出前講座もあるので、こころの健康という視点も踏まえて行うことは可能である。

【五十嵐委員】

孤立がキーワードになる。子どもも高齢者も様々な問題により孤立から自殺につながりやすいという流れで説明してはどうか。

【丸山委員】

産業保健センターでは、平成 27 年度以降 50 人以上の事業所へストレスチェックを行っている。50 人以下の事業所については、基本的には自助努力である。相談に来る人も年に 1～2 回程度の利用である。中小の事業所の場合は個人の特定につながることから、地域でストレスチェックをする方法はどうか。

【川室会長】

企業の健診を担当する開業医の先生と自殺予防の啓発から連携できるとよいが、大きな医療機関はどうか。

【深澤委員】

医療機関でもストレスチェックを行っているが、事業者に結果が公表されると個人が特定されてしまうのではないかと思う。

【山田委員】

中小の事業所の人にも、年１回の健診にストレスチェックを入れてはどうか。

【丸山委員】

健診時に一緒に行っている中小の事業所もあり、情報を得ることはできている。

【川室会長】

個人情報も課題ではあるが、健診時にストレスチェックができる仕組みがあるとよい。

【五十嵐委員】

50 人以下の事業所が研修会に参加したらポイントがつく等、担当課と連携するとよい。

【長嶺上席保健師長】

産業政策課や商工会議所等へ健康の大切さについて働きかけている。健康づくりに関する講座を行っている企業もいくつかあるので、今後も増やしていきたい。体とこころの健康について一体的に取り組む必要がある。

【五十嵐委員】

健康に取り組んでいる中小の事業所を市のホームページで紹介する取組はどうか。働き盛り世代の自殺の実態について、問題意識を持つことは重要である。

【丸山委員】

50 人以下の事業所については、健診時にストレスチェックを行うという手段はあると思うが、1 人親方で仕事をしている建設業の人もいる。市で実施している健康づくりポイント事業と絡めてストレスチェックを周知してはどうか。

【川室会長】

次に、資料 2④～⑥の自殺ハイリスク者への支援について協議する。

【澁谷委員】

何回も入退院を繰り返している人がおり、医療機関のケースカンファレンスに退院前から参加し、地域の体制を整えてから退院している。退院後も訪問看護等と連携して支援しているが、複数の関係機関で関わっていても難しいこともある。常に死にたい、生きづらさを訴える人もおり、話を聴き続けることで課題を整理し、自殺を未然に防いでいきたい。

【山田委員】

リスクの高い方が内科等の医療機関を受診した後に紹介されて精神科受診や入院につながるという連携が取れている。澁谷委員の発言で、多職種連携で取り組んでいることは、これまでの成果ではないかと思う。

【川室会長】

青少年健全育成センターが若い人向けの相談機関のパンフレットを作っているが、相談機関の情報提供はそれぞれの対象者向けにあるのか。

【長谷川主任】

すこやかなくらし包括支援センターでは、こころの健康の相談窓口のチラシを作っており、ホームページへの掲載や地域包括支援センターに配布している。働き盛り世代にも広く配布していきたい。

【川室会長】

ホームページはアクセスしやすいのか。

【長谷川主任】

ホームページからすこやかなくらし包括支援センターに連絡が入っているので、アクセスは難しくないと思う。

【川室会長】

アクセスのしやすさも検討課題である。次に⑦～⑩のライフステージ別の課題や自殺実態に応じた対応について協議する。子ども・若者についてはどうか。

【五十嵐委員】

大学入学時にこころの質問調査でスクリーニングを行っており、それぞれの状況に合わせて専門機関が相談等の対応をしている。

【山田委員】

上越市の大学等に在籍し、一人で生活しているストレスなのか 4～6 月にかけて精神科を受診する学生は一定数いる。

【牧井委員】

長期休業が明けて新しい学期が始まる時期は、教員も教育委員会も緊張している時期であり、国としても注意する時期と捉えている。9 月に入ってから、子どもの不安定さに関する報告が多い。

【川室会長】

学校として、子どもの対策をどのように考えているのか。

【牧井委員】

学校も 9 月に入れば様々な悩みを持った子どもが出てくる前提で、気になる子どもには休業中に電話や面談等の対応をしている。

【川室会長】

子どもの生きる力をどう高めていくか、ＳＯＳをどうやって出していくかというところに学校現場の先生が重点を置いていると理解している。また、孤立しないようにしっかりと把握し、発信できる場所や窓口の周知も含めて重要である。

【馬場委員】

小中学校の不登校の子どもが増えており、心配している。不登校の子どもをどのように支えていくのか、保護者と学校等の関係機関で一生懸命取り組む必要がある。

【川室会長】

一人の不登校であっても支援し、登校につながればと思う。学校では話しやすい環境を作っていくことが重要である。また、教師側のメンタルヘルスの問題もあり、子どもと教師のこころの問題は学校の検討課題である。

【五十嵐委員】

原因・動機のデータは平成 30 年から令和 4 年までの合計だが、コロナによる影響はどうか。不況による経済問題の働き盛り世代への影響等、コロナ前後で分析し対応を考えてみるとよい。

【川室会長】

高齢者への取組について、高齢者の自殺者数は減ってきているがどうか。

【星野委員】

高齢者が集う場での啓発や見守り活動を推進している。高齢者へ弁当を配達するふれあいランチサービスにおいて、本人に手渡しし声かけしている。

商工会議所、郵便局等と見守りの協定を締結し、4,000 以上の事業所が協力している。また、町内会、民生委員、地域包括支援センターやケアマネジャーにも見守りを依頼している。高齢者の自殺予防の取組も進めており、研修会等の中でフォローしていきたい。

【川室会長】

ゲートキーパーについて簡単にまとめた資料を作り導入していくのはどうか。

（事務局が、資料 3 により説明）

【川室会長】

自殺予防対策推進計画の評価指標について、まずは令和 8 年の自殺死亡率を 15.7 以下にする。少しでもゼロに近づけるよう、自殺予防対策推進計画を推進していきたい。

【五十嵐委員】

実施した内容の満足度がどれだけであったかを評価指標に含めてはどうか。

【長嶺上席保健師長】

数値を把握し評価できる項目として評価指標に挙げている。今回策定する計画が 12 年間の計画であるため、毎年の自殺予防対策連携会議の中で各年度の取組について評価をしていく。アンケートについても検討し、満足度を関係機関と相談しながら評価していく。

【川室会長】

地域が中心となり様々な取組を考えていくことが重要であり、本日の意見を踏まえて計画に活かしていきたい。働き盛り世代の自殺問題について、健康診断を実施する際にストレスチェックを取り入れる意見について、事務局として検討していきたい。子どもについては難しい問題を抱えているが、できる限り子どもを健康にしていくということが重要であり、真剣に取り組んでいきたい。子どもから高齢者まで、孤立させず、死にたい気持ちがあってもそれを生きる力に変えていくことが大事だと思う。

【柳澤統括保健師長】

本日の意見を基に計画策定に活かしていく。次回の専門部会第 2 回目の開催を 10 月 18 日に予定している。これで、令和 5 年度上越市自殺予防対策連携会議専門部会を終了する。

９ 問合せ先

健康福祉部健康づくり推進課健診・相談係 TEL：025-520-5841

E-mail：kenkou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。